

社会的公正判断過程における公正さの基準の分析 —社会的公正判断過程に関する研究(2)—

中村 慎佑*¹ 西迫成一郎*² 森上 幸夫*³ 桑原 尚史*⁴

要 旨

本研究では、社会的不公正事態に対する公正の判断基準を検討した。収集された社会的不公正事態に対して評定を求め、因子分析の手法を利用し公正さの基準を明確にすることを目的とした。結果として、公正さの基準には、1) 公共的道德規範からの逸脱状況、2) 自己の経済的な損失状況、3) 人権侵害状況、4) 対人的道德規範からの逸脱状況、5) 権力者の不正行為状況、6) 特定者間における権利侵害状況という基準があることが明らかとなった。

An Analysis of the Criteria for Making Social-Justice Judgements —A Study of the Cognitive Process in Social-Justice Judgements (2)—

Shinsuke NAKAMURA*¹ Seiichiro NISHISAKO*²
Yukio MORIKAMI*³ Takashi KUWABARA*⁴

Abstract

The main purpose of this study is to investigate the criteria for making social-justice judgements. Through a pilot examination, we collected 85 unjust situations. Then we employed 270 undergraduate students as subjects. These undergraduates completed a questionnaire rating the social-justice judgements in unjust situations. Next, we carried out a factor analysis of these 85 unjust situations. The findings of this analysis showed that the following criteria are used in making social-justice judgements: 1) deviation from the social norm, 2) economic loss, 3) human rights violations, 4) deviation from moral standards, 5) immoral use of power, and 6) harm to specific persons.

Key words: justice, social-justice judgements, unjust situations.

*¹ 関西大学大学院総合情報学研究科

*² 相愛大学人文学部

*³ 大阪国際大学人間科学部

*⁴ 関西大学総合情報学部

問題の所在

人は、日々の生活において、様々な場面で公正に関する判断を行っている。それは、自己が直接的に損害を被る場面から、社会的事件や政治的問題などの幅広い場面に対してである。具体的にいえば、公正に関する判断は、自己が道端で人とぶつかったというような直接的に被害を被るという場合や、世界のどこかで紛争が起こっているという場面をニュースで見た場合など様々である。このように広範な社会的事象を含む社会的不公正事態において、公正か不公正かという判断は、以後の自己の行動、意思決定あるいは社会的事象に対する態度の決定にとって重要な役割をもっている。

公正に関する諸問題は、哲学や政治学の多くの領域で、古くから盛んに研究が行われ、その結果は今日の社会心理学における公正研究にも多大な影響を残している (e. g., 田中, 1998)。社会心理学における公正研究には、いくつかの流れがあることを Tyler, Boeckmann, Smith & Hou (1997) は指摘している。それによると、相対的剥奪 (relative deprivation), 分配的公正 (distributive justice), 手続き的公正 (procedural justice), 報復的公正 (retributive justice) の研究に大別される。

相対的剥奪とは、人の満足感が客観的基準によって決定されるのではなく、自己の結果と他者の結果を比較した上で、他者の方が良い結果であると評価した場合、不満を感じるという現象である。つまり、享受して当然の結果を自己が受けていないにもかかわらず、同じ状況におかれている他者が受けている場合には、不満を感じるということである。相対的剥奪の研究では、相対的剥奪を感じる状況におかれた人がとる、抗議行動や暴動といった集団的無秩序の問題や、比較対象としての自己や他者のどの要素に注目しているのかといった問題に関する検討がなされてきた。

分配的公正の研究では、人が仕事や何らかの行為に対して投じたものと、その結果として受け取る報酬や昇進の分配が公正かどうかの問題とされる。Homans (1961) によれば、分配が公正であると判断される場合には、報酬に対する投資と費用の間に均衡がとれている状態であり、均衡がとれていない場合には、不満や怒りといったネガティブな感情を伴う行動が生起しやすくなるとしている。また、Adams (1965) による公平理論 (equity theory) では、人がある対象に対して投入したものと、その成果として得られた結果が均衡状態であれば、公平とされるとしている。こうした分配的公正に関する研究では、どのような分配が公平な分配といえるのかが中心的な課題として検討がなされてきた。

手続き的公正は、Thibaut & Walker (1975) や Leventhal (1980) によって取り上げられ、報酬や成果の分配を決定する判断の過程において、公正な手続きがなされたか否かに焦点が当てられてきた。たとえば、会社において給与という報酬を得るという場面では、自己の報酬を規定するのは、上司という他者である。この決定は、自己にとって重要な意味をもつため、決定にいたるまでの過程あるいは手続きにも多大な関心が寄せられる。その過程において不正が

あれば、手続きに対して不公正と感じる。この手続き的公正の研究では、ある意思決定がなされるまで、いかなる過程を経たか、あるいはどのような手続きがなされたかについての検討がなされてきた。

報復的公正とは、法律や規則など、本来守られるべきものが破られるような事態が起こった際、違反者に対して、罰を与えるべきか、与えらるならどういう罰で、どの程度の罰を与えるべきかという公正の形態である。この報復的公正の研究においては、法律や規則の違反者あるいは逸脱者に対して、人が制裁の必要性や、その方法あるいは程度を判断する際に、どのようになされているかという検討がなされてきた。

この4つの公正研究の流れを俯瞰すると、これまでの公正研究が、不公正と判断される場面を個別的あるいは独立したものとして、細分化してとらえられて検討されてきたことがわかる。しかしながら、現実として、日々の生活における社会的な不公正事態は、どのような場面でも遭遇し得るし、その被害の程度や性質の差も場面ごとに違っている。たとえば、自分の車庫の前に車が駐車されているために、自分の車を出すことができないというような社会的な不公正事態は、これまでの相対的剥奪、分配的公正、手続き的公正、報復的公正という研究の枠組みでは、想定されていなかった事態であろう。他に、新聞やテレビを通して、世界の紛争や貧困を知った際にも、不公正と感じることがあるが、これらの社会的な不公正事態が、これまでの研究の枠組みでは取り上げられてこなかったことをふまえれば、既存の分析だけでは不十分であることが指摘できる。そのため、こうした多様性に富む社会的な不公正事態を個別的、独立的にのみとらえるのではなく、具体的事例を取り上げて、これまでの研究を包括する枠組みでの統合的な公正研究が必要である。さらに、本研究では、社会的公正事態ではなく、社会的な不公正事態を主として取り上げる。その理由は、人は、なされて当然な行為や常識にそった行為よりも、規範的な状態が損なわれた際に、より正しさや不公正さを感じるからである。たとえば、ただ車を運転するという行為だけでは公正さを気にとめることはないが、他の車が急に飛び出してきたために危険を感じたとしたらどうだろうか。相手に対して、なぜ、交通ルールを守らないのかといった思いがよぎるはずである。

もちろん、そうした社会的な不公正判断には、人がそれぞれにもつ特性、すなわち個人差の要因も考慮しなければならない。たとえば、不正は絶対に許すことができないという人では、些細な問題に関しても、より強く社会的な不公正判断がなされることが考えられる。いいかえれば、規範や儀礼といったものを重視している人にとっては、規範から逸脱する行為や、儀礼や慣習をないがしろにする行為に対して、強い社会的な不公正感を抱くことが考えられるということである。それは、人が、正しい行いには良い結果が得られ、間違っただけには悪い結果が得られると感じる正当世界信念 (belief in a just world) や、規範意識をどの程度もっているかという次元である。正当世界信念を強くもっている人では、社会的な不公正事態は許しがたいものであるから、その社会的な不公正判断も強くなされるだろう。また、規範意識に関して、規範意識を強くもっている人では、規範に反する多くの事態が含まれている社会的な不公正事態に対す

る、社会的不公正判断もより強いものとなるだろう。こうした社会的不公正事態に対する個人的な態度を考える際、自分の能力によって問題に対処できるかどうかも重要となる。社会的不公正事態に直面した際に、自分の力で何とか対処できるだろうと考える人では、不公正感がそれ程強く喚起されないことが考えられる。その反面、自分の能力ではどうすることもできないだろうと考える人では、不公正感が強く喚起されることが考えられる。それに関連して、ある結果が自分の能力によってどの程度統制ができるかという判断の傾向である、統制感も考慮する必要がある。

社会的不公正事態に対する社会的不公正判断過程の分析にあたっては、帰属理論の知見が参考となる。それによると、生じた事態が、自分にとって、意外あるいは重要な出来事である場合に帰属 (attribution) がなされやすいことが指摘されている (Weiner, 1985, 1986; Wong & Weiner, 1981)。帰属理論の古典的モデルである Trope (1986) の2段階モデル (two-stage model) では、原因帰属にいたるには、同定 (identification) と推論 (inference) の2つの段階を経るとする。まず、生起している事態に対して状況の手がかり、行動の手がかり、先行情報手がかりに基づいて状況の同定がなされる。同定の結果を受けて、個人や集団の属性が推論されるという。この2段階モデルの枠組みに依拠するならば、直接的に自己が被害を被っている事態か、自己に対して身近なところで生起している事態か、原因が特定できる事態かという側面もまた状況の同定段階として措定することができる。さらに、Lazarus & Folkman (1984) によるストレスの認知評価理論 (cognitive appraisal theory) では、何らかの出来事や状況に直面した際、その出来事や状況に対して評価を行い、評価の結果によっては対処 (coping) の方法が考案されると指摘している。その評価は2段階に分かれ、1次評価でスト

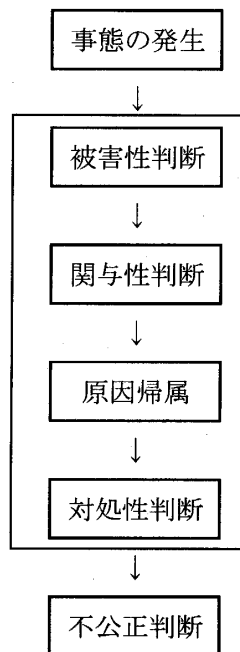


Fig. 1 不公正判断過程仮説モデル

レスフルと評価された場合、2次評価では、どのような対処が可能かという評価がなされるとしている。これにより、社会的な不正事態に直面した際に、対処の策が講じられると考えるのが妥当である。上述した4側面の検討の必要性を受けて、それらを整理するため作成した、社会的な不正判断過程モデルをFig. 1に示す。社会的な不正判断過程仮説モデルでは、事態の発生からの社会的な不正の判断過程において、被害性判断、関与性判断、原因帰属、対処性判断の各判断がなされているだろうとするものである。

他方、交通マナーが守られないという社会的な不正事態と、金銭面での不満が生じている社会的な不正事態では、同じ判断が行われるとは考えにくいことから、社会的な不正判断に影響を及ぼす、何らかの基準が存在していることが想定できる。社会的な不正判断に影響する基準を見いだすには、法からの逸脱行為や日常生活における些細な問題まで、規模から被害の大きさなど、実に多くの状況が含まれている社会的な不正事態を詳細に分析する必要がある。それにより、多様な社会的な不正事態に対する社会的な不正判断にどのような基準が存在し、また、その基準によっていかなる社会的な不正判断がなされるかを明らかにすることが可能となる。以上の議論から、公正に関する判断の過程を分析する上で、いかなる基準によって、社会的な不正判断が揺らぐのかを検討することには大きな意義がある。さらに、性質の異なる社会的な不正事態では、正当世界信念、規範意識、統制感の保持の程度によって、社会的な不正判断に影響を受けることも考えられる。

そこで、本研究では、調査1においては、社会的な不正事態を因子分析の手法を利用することによって、社会的な不正事態にいかなる基準が存在しているのかを分析する。そして、いかなる基準が、社会的な不正事態に対する社会的な不正判断に影響を及ぼすのかを検証することを目的とする。続けて、社会的な不正事態において、社会的な不正判断に重要な役割を果たしているだろう公正さの基準と、正当世界信念、規範意識、統制感との関係を分析することを試みる。調査2においては、社会的な不正事態を被害性、関与性、原因特定性、対処性の各側面からとらえることによって分析を行う。同時に、社会的な不正感と被害性、関与性、原因特定性、対処性という4側面との相関関係を明らかにすることを主題とする。

調 査 1

調査1では、山口・森上・西迫・桑原(2003)で得られた社会的な不正事態の項目を一部そのまま用い、また、時事的な諸問題を加味するために、人がどのような場面や状況において不正だという判断をするかについての山口ら(2003)と同様の予備調査を実施する。そして、そこで得られた項目を因子分析の手法により、不正という判断をする場面や状況の整理を行い、人の社会的な不正判断過程に影響を及ぼす基準を明確化することを目的とする。さらに、公正さの基準について、正当世界信念、規範意識と私生活主義、統制感との関連性を検討する。

方 法

被験者：大学生男子189名，女子81名の計270名を調査対象とした。

材料の作成：予備調査において，山口ら（2003）によって得られた項目に，時事的な社会的
不公正事態を加味するために，大学生男子1名，女子12名の計13名を被験者として，不公正と
感じることにについて，それぞれに面接法により回答を求めた。その結果，48項目の社会的
不公正事態が得られた。次に，得られた項目から山口ら（2003）で用いられた項目と重複して
いるものを省いた。そして，項目内容の整理にあたった4名の合意のもとに，予備調査で得
られた3項目と，山口ら（2003）で得られた項目のうち82項目，合わせて85項目に集約した
（Table 1）。

材料：材料として，予備調査とその整理によって得られた85項目の社会的
不公正事態から作成された社会的
不公正感を測定する項目，正当世界信念を測定する正当世界尺度，規範意識と私生活主義という社会意識を測定する規範意識と私生活主義尺度，統制感を測定する Locus of Control 尺度（以下 LOC 尺度）を用いた。

今野・堀（1998）による正当世界尺度は，Rubin & Peplau（1975）が開発した正当世界尺度の問題点を指摘するとともに，その枠組みに依拠し，4項目からなる新たな尺度を作成したものである。それは，正の投入には正の結果が伴い，負の投入には負の結果が伴うという意味をもつ4項目から構成され，正当世界信念を測定する。

久世・和田・鄭・浅野・後藤・二宮・宮沢・宗方・内山・平石・大野（1988）による規範意識と私生活主義尺度では，「規範意識」，「身近な事象への関心・社会的
事象への無関心」，「自分の感覚や実感の重視」からなる3つの下位尺度によって構成されており，第2尺度と第3尺度は私生活主義の下位尺度である。規範意識では，慣習や礼儀に対する尊重の傾向を測定の対象としている。身近な事象への関心・社会的
事象への無関心では，社会や政治への無関心さと私生活における充実を追求する傾向を測定の対象としている。また，自分の感覚や実感の重視では，自己の思いやスタイルをどの程度主張するかの傾向を測定の対象としている。規範意識と私生活主義尺度は，33項目で構成されている。

鎌原・樋口・清水（1982）による LOC 尺度は，Rotter（1966）による I-E 尺度（Internal-External Scale）の問題点を指摘しつつ，新たに尺度を作成したものである。Rotter（1966）によれば，賞や罰を受けたり，成功や失敗したとき，その結果を，自分の能力によってコントロールできるととらえる場合と，自分の能力ではない運の良さや課題の簡単さとして受けとめる場合とがあるという。LOC 尺度は，自分の行為とその結果に対してどの程度，統制感を有しているかの傾向を測定する，18項目で構成されている。

手続き：被験者に対し質問項目を呈示し，社会的
不公正の測定の項目に関しては「不公正でない」から「ひじょうに不公正である」の7段階で，正当世界尺度に関しては「あてはまらない」から「あてはまる」までの5段階で，社会意識と私生活主義尺度に関しては「非常に賛成」から「非常に反対」までの5段階で，LOC 尺度に関しては「そう思わない」から「そう思う」

までの4段階で評定を求めた。

結果および考察

社会的公正事態の各項目の得点を「不公正でない」を1として、「ひじょうに不公正である」を7として数値化し、85項目の各項目の平均評定値および標準偏差を算出した(Table 2)。平均評定値を全体的に俯瞰してみると、すべての項目において強い不公正感が喚起されているとはいえないが、82項目において中央値を上回っており不公正という判断がなされていることがわかる。さらに、平均評定値から、人は、公共的あるいは対人的な規範や、ある特定の個人や集団が不利益を被る事態に対して、より強く不公正という判断をしていることが指摘できる。続いて、項目の得点が、5.5以上23項目を高群、4.7以下21項目を低群として分類した。高群においては、「児童虐待があること」、「官僚が天下りをしていること」、「順番待ちの列に割り込む人がいること」といった多くの人に迷惑と認知されている社会的公正事態が多いことがわかる。反面、低群においては、「電車内で化粧をする人がいること」、「原子力発電所が特定の地域に集中していること」、「土地が高いこと」といった、人によっては、その判断がまったくことなることが考えられる項目が多く含まれていることがわかる。また、標準偏差をみると、項目ごとのばらつきが目立つが、これは、被験者が関与しているか否かといった個々のおかれた状況によって左右されるという個人差の影響を指摘できる。

続けて、上述の評定値を用いて主因子法による因子分析を試みた。その結果、6つの因子が抽出された。プロマックス回転後の因子負荷量はTable 3に示すとおりである。

第1因子に負荷の高い項目は、「図書館で大きな声で話す人がいること」、「電車で降りる人よりも先に乗る人がいること」、「喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること」などの項目に象徴されるように、その多くが公共の場において本来遵守されることが望ましいとされる規範から逸脱した事態である。それにより、周囲の人間が不利益を被るといった事態を表す項目により構成されている。よって、この因子を公共的・道徳規範からの逸脱状況として解釈した。

第2因子に負荷の高い項目は、「税金が高いこと」、「銀行で手数料を取られること」、「携帯電話の料金が安いこと」などの項目に象徴されるように、多くは経済的あるいは金銭的な側面において、自己が不利益を被る事態を表す項目より構成されている。したがって、この因子を自己の経済的な損失状況として解釈した。

第3因子に負荷の高い項目は、「児童虐待があること」、「弱い者いじめをする人がいること」、「世界の中で飢餓が存在する国があること」などの項目に象徴されるように、人の生存や人権が抑圧または侵害されている事態を表す項目により構成されている。そのため、この因子を人権侵害状況として解釈した。

第4因子に負荷の高い項目は、「自分の考えをおしつける人がいること」、「相手によって態度を変える人がいること」、「自分の責任を他者に転嫁する人がいること」などの項目に象徴さ

れるように、対人的な場面において、相手に配慮する行動をとらなかったが故に、不快感を与えてしまうといった事態を表す項目から構成されている。それにより、この因子を対人的道徳規範からの逸脱状況として解釈した。

第5因子に負荷の高い項目は、「不当な解雇が行われていること」、「官僚が天下りをしていること」、「私利私欲にはしる政治家がいること」などの項目に象徴されるように、権力を持っている人が、一方的にその地位を利用し不正を働いた事態を表す項目によって構成されている。よって、この因子を権力者の不正行為状況として解釈した。

第6因子に負荷の高い項目は、「原子力発電所が特定の地域に集中していること」、「深夜に暴走族がうるさいこと」、「海外に膨大な資金援助が行われていること」などの項目に象徴されるように、特定の人間や組織による限られた範囲での迷惑状況を象徴する事態を表す項目によって構成されている。そのため、この因子を特定者間における権利侵害状況として解釈した。

次に、因子ごとの社会的不公正感の平均評定値と標準偏差を算出した (Table 4)。その結果、権力者の不正行為状況において、もっとも強い不公正感が喚起されることがわかった。これは、力をもっている人が、権力や立場を悪用して脱税や天下りをするといった、狡猾で卑怯な行為に対して、強く社会的不公正判断がなされていることを示している。第2に、人権侵害状況において、強い不公正感が喚起されることがわかった。これは、人は、弱者が虐げられているような社会的不公正事態に対して、より強く社会的不公正と判断することを示している。

続けて、社会的不公正感と、正当世界信念、規範意識および統制感との間において、それぞれ相関分析を行った。社会的不公正感と正当世界信念との相関分析によって得られた結果は Table 5に示すとおりである。その結果、社会的不公正感と正当世界信念では有意な相関は認められなかった。これは、正当世界信念の保持が、社会的不公正判断に強く影響を及ぼさないことを示唆している。よって、正当世界信念を強くもっている人のほうが社会的不公正事態に対して、より強く不公正という判断をするだろうという仮説は支持されなかった。

社会的不公正感と規範意識と私生活主義との相関分析によって得られた結果は Table 6に示すとおりである。その結果、社会的不公正の公共的道徳規範からの逸脱状況と規範意識と私生活主義の下位尺度である規範意識との間に弱い相関が認められた ($r=.22, p<.01$)。これは、規範意識の強い人が、公共的な場面での社会的不公正事態という公共的道徳規範からの逸脱状況において、より強く不公正であると判断する傾向があることを示している。よって、規範意識を高くもっている人は、社会的不公正事態に対して、より強く社会的不公正判断をするだろうという仮説は一部支持されたといえる。

社会的不公正感と統制感との相関分析によって得られた結果は Table 7に示すとおりである。その結果、公共的道徳規範からの逸脱状況と統制感との間に弱い相関が認められた ($r=.21, p<.01$)。これは、統制感の強い人は、公共的な場面での社会的不公正事態という公共的道徳規範からの逸脱状況において、より強く社会的不公正であると判断する傾向があるということを示している。さらに、人権侵害状況と統制感との間に弱い相関が認められた ($r=.25, p<.01$)。

これは、統制感の強い人が、弱者が虐げられているといった社会的な不正事象に対して、より強く不公正という判断する傾向があることを示している。しかし、社会的な不正事象のその他の因子における社会的な不正感と、正当世界信念、規範意識および統制感の間では有意な相関は認められなかった。

以上の相関分析によって得られた相関は弱いものであり、多くの社会的な不正事象では、正当世界信念、規範意識あるいは統制感によって社会的な不正判断が強く影響を受ける社会的な不正事象は少ないと考えられる。しかし、一部において仮説は支持されているため、規範意識や統制感と社会的な不正判断との関係は軽視できないものである。今回、社会的な不正判断との相関が認められなかった正当世界信念に関しても、今野・堀(1998)においては、不正状況との間で一部、相関があることが指摘されていることから、再度検討してみる必要がある。

調査1では、人が不公正という判断をする場面や状況を因子分析によって整理を試みた。その結果、社会的な不正判断に影響を及ぼす事象として、1) 公共的道德規範からの逸脱状況、2) 自己の経済的な損失状況、3) 人権侵害状況、4) 対人的道德規範からの逸脱状況、5) 権力者の不正行為状況、6) 特定者間における権利侵害状況という6つの性質の異なる公正さの基準があることがわかった。これより、6つの公正さの基準の状況の相違によって社会的な不正判断が異なることが指摘できる。さらに、6つの公正さの基準と、社会的な不正事象の各項目を俯瞰してみると、金銭をめぐる社会的な不正事象や就職に関する社会的な不正事象など、従来の枠組みの中で議論されてきた事象も一部あるが、相対的剥奪、分配的公正、手続き的公正、報復的公正という、これまでの研究の視点からは分析できない社会的な不正事象が数多く存在し、同時に、社会的な不正であるとの判断がなされていることがわかる。続けて、6つの公正さの基準を鑑みると、人は、自己が直接的に迷惑を受けたときだけでなく、何処かで他者が虐げられていたり、迷惑を被っているときにも、社会的な不正であると判断することがわかる。また、社会的な不正事象によって受ける迷惑、あるいは被害が些細な場合から甚大な場合まで、社会的な不正という判断をしていることが指摘できる。以上の考察をふまえるなら、公正さの基準の相違を認識し、社会的な不正事象に対する総合的かつ包括的な研究の取り組みを行うことが、社会的公正の研究にとってきわめて有効な方法であるといえよう。

調 査 2

調査2においては、実際に何らかの迷惑を受けているかに関する被害性、事象が身近な場面で生起しているかに関する関与性、事象の原因の特定がどの程度可能かに関する原因特定性、事象生起後に改善ができるかに関する対処性という側面の検討を行うことを試みる。そして、社会的な不正事象の被害性、関与性、原因特定性、対処性の各側面の相違によって、社会的な不正判断にいかなる影響がみられるかの検証を目的とする。

方法

被験者：大学生男子94名，女子94名の計188名を調査対象とした。

材料：調査1で得られた85項目の社会的不公正事態を用い，その項目に対し被害の程度および関与の程度を問う質問紙を作成した（質問紙1）。次に，質問紙1と同じ85項目の社会的不公正事態を用いて，原因の特定がどの程度可能か，改善がどの程度可能かを問う質問紙を作成した（質問紙2）。

手続き：被験者を質問紙1・質問紙2に対して，均等に割り当てた。そして，被害性に関しては「まったく迷惑を受けていない」から「ひじょうに迷惑を受けている」までの7段階で評定を求めた。関与性に関しては「まったく身近でない」から「ひじょうに身近である」までの7段階で評定を求めた。原因特定性に関しては，「まったく原因が特定できないと思う」から「ひじょうに原因が特定できると思う」までの7段階で評定を求めた。対処性に関しては，「まったく改善ができないと思う」から「ひじょうに改善ができると思う」までの7段階で評定を求めた。

結果および考察

被害性については，各項目の得点を，「まったく迷惑を受けていない」を1とし，「ひじょうに迷惑を受けている」を7として，平均評定値と標準偏差を算出した（Table 8）。そして，被害性の項目の得点が5.5以上29項目を高群，5.0以下29項目を低群として分類した。

関与性については，各項目の得点を，「まったく身近でない」を1とし，「ひじょうに身近である」を7として，平均評定値と標準偏差を算出した（Table 9）。そして，関与性の項目の得点が5.5以上38項目を高群，5.0以下29項目を低群として分類した。

原因特定性については，各項目の得点を，「まったく原因が特定できないと思う」を1とし，「ひじょうに原因が特定できると思う」を7として，平均評定値と標準偏差を算出した（Table 10）。そして，原因特定性の項目の得点が4.7以上25項目を高群，4.3以下26項目を低群として分類した。

対処性については，各項目の得点を，「まったく改善ができないと思う」を1とし，「ひじょうに改善ができると思う」を7として，平均評定値と標準偏差を算出した（Table 11）。そして，対処性の項目の得点が4.2以上31項目を高群，3.9以下28項目を低群として分類した。

さらに，被害性，関与性，原因特定性，対処性の平均評定値と標準偏差の一覧を Table 12 に示す。

次に，それぞれの平均評定値を参照すると，被害性高群には，対人的な場面において，甚大な被害をもたらす事態よりも些細な被害をもたらす事態が多く含まれていることがわかる。反面，被害性低群には，一般的に社会問題としてとらえられているような，対象が広範にわたり，被害を受ける側も多数に上る事態が多く含まれていることが指摘できる。

関与性高群からは，被害性高群と同様の，対人的な場面において，些細な被害を受ける事態

が多く含まれていることがわかる。逆に、関与性低群には、対人的な場面で被害を被る事態より、社会問題として認知され、広範に被害の及ぶ事態が多く含まれていることが指摘できる。

原因特定性高群からは、被害性高群や関与性高群とは逆に、社会問題として認知され、広範に被害を及ぼすととらえられている事態が多く含まれていることがわかる。一方、原因特定性低群では、多様な項目がみられるため、大きな特徴が見いだせない。この点から、原因特定性に関しては、原因が一見きわめて明白か、そうでないかというように判断がわかれることも想定できる。

対処性高群では、社会問題として認知され、被害が広範に及ぶ事態が多く含まれている。対処性低群では、被害性高群と関与性高群に分類されていた項目をはじめ、対人的な場面において、些細な被害を受けるという事態が多く含まれている。これは、人にとって、とりわけ、被害性高群、あるいは関与性高群に多く含まれているような、対人的場面における社会的不公正事態に関しては、改善が難しいという判断をしていることが指摘できる。

また、社会的な不公正感と被害性、関与性、原因特定性、対処性において、相関分析を行った (Table 13)。本来なら、今回のようなケースでは、相関分析は用いないことが通例であるが、同一の被験者を対象とすると質問項目があまりに膨大になり、被験者に負担をかけることが予期されたため、同一の被験者でも、同様の結果になることを想定して分析を行った。その結果、社会的な不公正感と被害性との間で、強い相関が認められた ($r=.543, p<.01$)。これは、自己が重大な被害を受けているという社会的な不公正事態では、より強く社会的な不公正という判断がなされていることを示唆している。また、社会的な不公正感と関与性との間で、弱い負の相関が認められた ($r=-.317, p<.01$)。これは、身近で生起していない社会的な不公正事態の方が、より強く社会的な不公正という判断がなされていると考えられる。また、社会的な不公正感と対処性との間で、弱い相関が認められた ($r=.250, p<.05$)。これは、事態の改善が可能な事態であるにもかかわらず、その改善措置がとられていないということによって、より強く社会的な不公正判断がなされていると考えられる。

以上、本研究では、調査1においては、社会的な不公正判断に影響を及ぼす公正さの基準として、1) 公共的道德規範からの逸脱状況、2) 自己の経済的な損失状況、3) 人権侵害状況、4) 対人的道德規範からの逸脱状況、5) 権力者の不正行為状況、6) 特定者間における権利侵害状況という6つの性質の異なる基準の存在が明らかとなった。この結果は、公正さの基準を見いだしたのみならず、これまでの公正研究では取り上げられてこなかった社会的な不公正事態も社会的な不公正という判断がなされていることを示すものであった。続く、相関分析においては、公共的道德規範からの逸脱状況と規範意識との間に弱い相関が認められた ($r=.22, p<.01$)。さらに、公共的道德規範からの逸脱状況と統制感との間に弱い相関が認められた ($r=.21, p<.01$)。次に、人権侵害状況と統制感との間に弱い相関が認められた ($r=.25, p<.01$)。しかし、上述の3つの相関を除いて、社会的な不公正感と、正当世界信念、規範意識と私生活主義、統制感との間で当初の仮説どおりの強い相関関係は認められなかった。これについては、

社会的な不公正判断に、当初想定していなかった別の要因が寄与していたとも考えられる。

調査2においては、被害性や関与性の程度、事態に対する原因特定性、事態に対する改善の可能性という対処性の各側面と社会的な不公正感との相関分析を行った。その結果、社会的な不公正感と被害性との間に相関が認められた ($r = .543, p < .01$)。また、社会的な不公正感と関与性との間では、負の相関が認められた ($r = -.317, p < .01$)。さらに、社会的な不公正感と対処性との間に相関が認められた ($r = .250, p < .05$)。この結果は、社会的な不公正事態の被害性、関与性、対処性という側面の相違によって、社会的な不公正判断が異なるという仮説が支持されたといえる。原因の特定性に関しては、社会的な不公正感との間に相関が認められなかった。

本研究においては、まず、公正さの基準として、公共的な場面あるいは対人的な場面における規範からの逸脱という事態、経済的な不利益を被るという事態、人権が侵害または抑圧されるという事態、権力者が自己の権力を不正に用いるという事態、そして、限られた範囲で人が不利益を被る事態という社会的な不公正判断に影響を及ぼす6つの基準があるという視点を導くことができた。次に、社会的な不公正感と被害性、関与性、対処性との間で相関が認められたことから、これらの点は、社会的な不公正事態に対して、社会的な不公正であると判断する過程を解明する上で、重要な手がかりとなることを示唆している。しかしながら、いうまでもなく、本研究によって社会的な公正判断過程の全容が解明されたとはいえない。よって、今後は、調査2において測定した、被害性、関与性、原因特定性、対処性と社会的な不公正感との関連性について、さらに詳細な検討が必要とされよう。

Table 1 調査項目

番号	項目
1	戦争が行われていること
2	人を殺す人がいること
3	子どもの遊び場がないこと
4	ゴミをきちんと分別しない人がいること
5	弱い者いじめをする人がいること
6	児童虐待があること
7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと
8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと
9	核兵器を保有している国があること
10	プライバシーを侵害した報道がなされていること
11	世界中で環境破壊が進行していること
12	世界の中で飢饉が存在する国があること
13	貧富の差があること
14	警察官が不祥事を起こすこと
15	今なおいじめなき差別が存在すること
16	無駄な公共事業が行われていること
17	私利私欲にはしる政治家がいること
18	脱税をする人がいること
19	官僚が天下りをしていること
20	不当な解雇が行われていること
21	沖繩に基地が集中していること
22	海外に膨大な資金援助が行われていること
23	原子力発電所が特定の地域に集中していること
24	違法駐車が見逃がされていること
25	子どものしつけができない親がいること
26	学歴で就職が決まること
27	コネで就職が決まること
28	深夜に暴走族がうるさいこと
29	騒音を出す人がいること
30	ゴミを道に捨てる人がいること
31	乱暴な運転をする人がいること
32	違法駐車をする人がいること
33	年上の人に敬語を使わない人がいること
34	電車内で化粧をする人がいること
35	ところまわす座りこむ人がいること
36	興味本位な報道が多いこと
37	動物虐待があること
38	医療ミスが起きること
39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと
40	犯罪に時効があること
41	障害者が暮らしにくい社会であること
42	出席だけをとって帰る学生がいること
43	要領のよい人ばかりが得をすること
44	犯罪被害者が救済されないこと
45	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること
46	借りたものを返さない人がいること
47	他人に傷つくことを言う人がいること
48	カンニングをする人がいること
49	謝れば済むと思っている人がいること
50	順番待ちの列に割り込む人がいること
51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること
52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること
53	無愛想な店員がいること
54	授業中に私語をする人がいること
55	携帯電話の料金が高いこと
56	電車が混んでいること
57	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること
58	歩きながら煙草を吸う人がいること
59	挨拶をしない人がいること
60	最終電車の時刻が早いこと
61	銀行で手数料を取られること
62	図書館で大きな声で話す人がいること
63	学費が高いこと
64	電車内でヘッドホンから音が漏れること
65	電車内で座席に無理に座ること
66	混雑した電車内で若い人が優先座席に座ること
67	ペットの飼育のマナーを守らない人がいること
68	時間を守らない人がいること
69	ぶつかっても謝らない人がいること
70	分りにくい授業をしている先生がいること
71	交通ルールを守らない人がいること
72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること
73	将来年金がもらえないかもしれないこと
74	人の話を聞かない人がいること
75	銀行の利息が少なすぎる
76	土地が高いこと
77	税金が高いこと
78	人の悪口を言う人がいること
79	約束を守らない人がいること
80	嘘をつく人がいること
81	常に自分が正しいと思ってる人がいること
82	相手によって態度を変える人がいること
83	自分の考えをおしつける人がいること
84	自分の責任を果たさない人がいること
85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること

Table 2 社会的公正感の平均評定値と標準偏差(平均評定値の高い順)

順位	番号	項目	Mean	(SD)
1	6	児童虐待があること	6.25	(1.29)
2	17	私利私欲にはしる政治家がいること	5.99	(1.54)
3	19	官僚が天下りをしていること	5.95	(1.38)
4	37	動物虐待があること	5.93	(1.35)
5	20	不当な解雇が行われていること	5.89	(1.34)
6	16	無駄な公共事業が行われていること	5.83	(1.51)
7	50	順番待ちの列に割り込む人がいること	5.82	(1.41)
8	52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	5.81	(1.42)
9	2	人を殺す人がいること	5.76	(1.75)
10	73	将来年金がもらえないかもしれないこと	5.69	(1.71)
11	8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと	5.66	(1.44)
12	12	世界の中で飢饉が存在する国があること	5.66	(1.55)
13	85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	5.64	(1.59)
14	44	犯罪被害者が救済されないこと	5.62	(1.60)
15	9	核兵器を保有している国があること	5.58	(1.80)
16	11	世界中で環境破壊が進行していること	5.58	(1.54)
17	46	借りたものを返さない人がいること	5.56	(1.53)
18	7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと	5.56	(1.71)
19	15	今なおいじめなき差別が存在すること	5.55	(1.64)
20	18	脱税をする人がいること	5.55	(1.56)
21	41	障害者が暮らしにくい社会であること	5.54	(1.52)
22	57	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	5.54	(1.49)
23	10	プライバシーを侵害した報道がなされていること	5.53	(1.46)
24	1	戦争が行われていること	5.49	(1.93)
25	51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	5.48	(1.69)
26	67	ペットの飼育のマナーを守らない人がいること	5.48	(1.46)
27	38	医療ミスが起きること	5.42	(1.69)
28	63	学費が高いこと	5.42	(1.79)
29	30	ゴミを道に捨てる人がいること	5.41	(1.53)
30	28	深夜に暴走族がうるさいこと	5.41	(1.63)
31	70	分りにくい授業をしている先生がいること	5.40	(1.80)
32	72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	5.40	(1.55)
33	47	他人に傷つくことを言う人がいること	5.39	(1.49)
34	62	図書館で大きな声で話す人がいること	5.39	(1.54)
35	84	自分の責任を果たさない人がいること	5.39	(1.59)
36	14	警察官が不祥事を起こすこと	5.38	(1.80)
37	5	弱い者いじめをする人がいること	5.37	(1.70)
38	3	子どもの遊び場がないこと	5.33	(1.66)
39	79	約束を守らない人がいること	5.32	(1.61)
40	29	騒音を出す人がいること	5.31	(1.65)
41	69	ぶつかっても謝らない人がいること	5.26	(1.42)
42	31	乱暴な運転をする人がいること	5.19	(1.66)
43	71	交通ルールを守らない人がいること	5.18	(1.61)
44	40	犯罪に時効があること	5.18	(1.90)
45	4	ゴミをきちんと分別しない人がいること	5.14	(1.47)
46	27	コネで就職が決まること	5.14	(1.92)
47	39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	5.14	(1.68)
48	61	銀行で手数料を取られること	5.12	(1.95)
49	68	時間を守らない人がいること	5.11	(1.54)
50	58	歩きながら煙草を吸う人がいること	5.09	(1.91)
51	25	子どものしつけができない親がいること	5.06	(1.65)
52	77	税金が高いこと	5.06	(1.89)
53	49	謝れば済むと思っている人がいること	5.01	(1.66)
54	83	自分の考えをおしつける人がいること	4.95	(1.70)
55	26	学歴で就職が決まること	4.92	(1.97)
56	66	混雑した電車内で若い人が優先座席に座ること	4.92	(1.79)
57	65	電車内で座席に無理に座ること	4.88	(1.83)
58	80	嘘をつく人がいること	4.80	(1.75)
59	48	カンニングをする人がいること	4.80	(1.82)
60	81	常に自分が正しいと思ってる人がいること	4.76	(1.95)
61	32	違法駐車をする人がいること	4.76	(1.72)
62	74	人の話を聞かない人がいること	4.73	(1.68)
63	21	沖繩に基地が集中していること	4.73	(1.67)
64	78	人の悪口を言う人がいること	4.71	(1.81)
65	33	年上の人に敬語を使わない人がいること	4.69	(1.75)
66	54	授業中に私語をする人がいること	4.63	(1.67)
67	53	無愛想な店員がいること	4.61	(1.84)
68	45	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること	4.60	(1.79)
69	75	銀行の利息が少なすぎる	4.59	(1.94)
70	59	挨拶をしない人がいること	4.55	(1.71)
71	64	電車内でヘッドホンから音が漏れること	4.53	(1.82)
72	13	貧富の差があること	4.51	(1.97)
73	36	興味本位な報道が多いこと	4.48	(1.78)
74	82	相手によって態度を変える人がいること	4.46	(1.98)
75	24	違法駐車が見逃がされていること	4.35	(1.86)
76	55	携帯電話の料金が高いこと	4.27	(2.20)
77	35	ところまわす座りこむ人がいること	4.26	(1.86)
78	76	土地が高いこと	4.22	(1.88)
79	22	海外に膨大な資金援助が行われていること	4.15	(1.92)
80	42	出席だけをとって帰る学生がいること	4.10	(2.01)
81	43	要領のよい人ばかりが得をすること	4.07	(2.16)
82	23	原子力発電所が特定の地域に集中していること	4.05	(1.67)
83	60	最終電車の時刻が早いこと	3.98	(2.09)
84	34	電車内で化粧をする人がいること	3.75	(1.96)
85	56	電車が混んでいること	3.50	(2.16)

Table 3 因子分析の結果

因子名	番号	項目	I	II	III	IV	V	VI
公共的 道徳規範 からの 逸脱状況	62	図書館で大きな声で話す人がいること	.813	.023	-.134	-.043	.013	-.046
	72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	.731	.147	-.226	-.056	.074	-.08
	71	交通ルールを守らない人がいること	.713	.066	.062	-.099	.063	-.038
	51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	.688	-.215	.093	-.056	.009	.016
	57	電車で携帯電話で大声で話す人がいること	.683	.117	-.143	.008	.025	.006
	69	ぶつかっても謝らない人がいること	.664	.107	-.023	.103	-.045	-.140
	67	ベットの側の方のマナーを守らない人がいること	.624	.108	-.131	-.162	.160	.093
	45	本屋で読んだ本を元に返さない人がいること	.614	.130	-.154	.003	.028	-.019
	46	借りたものを返さない人がいること	.602	.006	.099	.103	-.081	-.152
	54	授業中に私語をする人がいること	.600	-.138	-.173	.170	-.013	.081
	52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	.599	-.019	.053	.003	.131	-.189
	64	電車でヘッドホンから音が漏れること	.574	-.018	-.109	.039	.005	.083
	35	ところかまわず座り込む人がいること	.540	-.134	-.189	.229	-.083	.342
	50	順番待ちの列に割り込む人がいること	.515	.145	.106	-.031	-.161	.029
	58	歩きながら煙草を吸う人がいること	.506	-.162	.031	.022	.120	.077
	41	障害者が暮らしにくい社会であること	.496	-.162	.175	.037	.235	-.202
	65	電車で座席に無理に座ること	.472	.299	-.131	.026	-.048	.022
	68	時間を守らない人がいること	.456	.179	.125	.188	-.079	-.218
	32	違法駐車をする人がいること	.447	-.300	.286	-.037	-.090	.344
	30	ゴミを道に捨てる人がいること	.442	-.048	-.036	.004	.177	.279
24	違法駐車が見逃がされていること	.430	-.131	.196	-.015	-.088	.374	
49	謝れば済むと思っている人がいること	.425	-.009	.071	.257	-.045	-.089	
4	ゴミをきちんと分別しない人がいること	.419	.075	.002	-.238	.045	.200	
34	電車で化粧をする人がいること	.402	-.224	-.212	.211	.024	.356	
44	犯罪被害者が救済されないこと	.374	-.138	.067	.202	.204	-.123	
48	カンニングをする人がいること	.359	-.225	.199	.230	.089	.074	
8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと	.357	.015	-.067	.003	.026	.012	
31	乱暴な運転をする人がいること	.349	.060	.176	-.051	.032	.340	
42	出席だけをとって得る学生がいること	.335	-.083	-.008	.274	.177	.008	
66	混雑した電車で若い人が優先座席に座ること	.301	.181	-.110	.155	.174	-.002	
3	子どもの遊び場がないこと	.291	.204	.200	-.218	.085	-.003	
10	プライバシーを侵害した報道がなされていること	.287	-.206	.120	.261	.059	.102	
77	税金が高いこと	-.136	.728	-.009	.122	-.024	.087	
76	土地が高いこと	-.154	.695	.057	.246	-.009	.085	
61	銀行で手数料を取られること	.069	.652	-.017	.029	.101	-.062	
60	最終電車の時間が早いこと	-.030	.561	-.071	.001	.073	-.017	
55	携帯電話の料金が高いこと	-.165	.543	.058	.091	.118	-.028	
75	銀行の利息が少なすぎる	.132	.534	.014	.034	-.019	.096	
56	電車が遅れていること	.043	.508	.022	.042	-.038	-.012	
63	学費が高いこと	.056	.488	.078	.133	-.032	.026	
70	分りにくい授業をしている先生がいること	.012	.487	-.039	-.009	-.010	.189	
74	人の話を聞かない人がいること	.277	.370	-.076	.274	.023	.082	
38	医療ミスが起きること	.034	.320	.254	.086	.129	-.031	
73	将来年金がもらえないかもしれないこと	.131	.308	.061	-.090	.250	-.014	
7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと	.092	.165	.072	.087	.136	-.098	
2	人を殺す人がいること	-.152	.001	.900	.009	-.227	-.028	
1	戦争が行なわれていること	-.383	.097	.750	.058	-.099	.137	
6	児童虐待があること	.100	-.011	.664	-.152	.239	-.115	
39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	.109	.046	.587	-.028	.055	.040	
5	弱い者いじめをする人がいること	.047	-.098	.549	.152	.127	.017	
12	世界の中で軌線が存在する国があること	-.041	.014	.493	.137	.193	-.048	
15	今なおいじめがなされる国があること	.009	-.148	.434	.118	.245	.209	
47	他人に傷つくことを言う人がいること	.200	-.023	.426	.256	-.140	-.072	
9	核兵器を保有している国があること	-.295	-.031	.402	.224	.121	.194	
11	世界中で環境破壊が進行していること	.109	.190	.274	-.121	.249	.076	
83	自分の考えをおしつける人がいること	.085	.222	-.031	.631	-.074	.038	
82	相手によって態度を変える人がいること	-.032	.061	.061	.621	-.068	.090	
80	嘘をつく人がいること	.090	-.005	.315	.553	-.052	-.111	
13	貧富の差があること	-.445	.025	.378	.473	.286	.064	
85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	.361	.051	.026	.467	-.071	-.039	
27	コネで就職が決まること	-.133	-.057	-.043	.463	.405	.086	
81	常に自分が正しいと思こんでいる人がいること	-.012	.368	.011	.458	-.169	.231	
43	要領のよい人ばかりが得をする	-.022	.142	-.030	.458	.134	-.061	
84	自分の責任を果たさない人がいること	.345	.144	-.042	.448	-.074	.064	
78	人の悪口を言う人がいること	.061	.108	.398	.445	-.047	-.094	
26	学歴で就職が決まること	-.177	.145	.006	.359	.327	.108	
53	無愛想な店員がいること	.136	.302	-.075	.354	.097	.004	
59	挨拶をしない人がいること	.302	.284	-.049	.339	.066	-.138	
79	約束を守らない人がいること	.278	.157	.311	.331	-.175	-.115	
33	年上の人に敬語を使わない人がいること	.208	.125	-.114	.299	.023	.184	
20	不当な解雇が行われていること	.060	-.130	-.156	.264	.694	.057	
18	脱税をする人がいること	.041	.067	.006	.035	.667	.127	
19	官僚が天下りをしていること	.131	.196	-.075	-.059	.624	.082	
17	私利私欲に走る政治家がいること	.028	.139	.020	-.024	.519	.220	
37	動物虐待があること	.273	-.008	.205	.010	.382	-.115	
16	無駄な公共事業が行われていること	.047	.222	-.003	-.184	.338	.327	
14	警察官が不祥事を起こすこと	.106	.086	.247	.002	.267	.125	
40	犯罪に時効があること	.150	-.066	.183	.030	.240	-.075	
23	原子力発電所が特定の地域に集中していること	-.153	-.025	-.071	.175	.187	.517	
28	深夜に暴走族がうるさいこと	.321	.020	.244	-.143	-.108	.492	
22	海外に膨大な資金援助が行われていること	-.227	.231	-.003	-.116	.099	.435	
25	子どものしつけができない親がいること	-.070	.272	-.011	.004	-.010	.415	
21	沖縄に基地が集中していること	-.036	-.044	.200	.171	.044	.400	
29	騒音を出す人がいること	.285	.059	.382	-.098	-.040	.387	
36	興味本位な報道が多いこと	.244	-.149	-.142	.217	.159	.292	
因子間相関	I	公共的道徳規範からの逸脱状況						
	II	自己の経済的な損失状況	.470					
	III	人権侵害状況	.533	.397				
	IV	対人的道徳規範からの逸脱状況	.488	.365	.457			
	V	権力者の不正行為状況	.367	.277	.435	.169		
	VI	特定者間における権利侵害状況	.427	.240	.331	.230	.283	

Table 4 各因子の平均評定値と標準偏差

因 子	Mean	(SD)
公共的道德規範からの逸脱状況	5.08	(1.01)
自己の経済的な損失状況	4.62	(1.34)
人権侵害状況	5.57	(1.10)
対人的道德規範からの逸脱状況	4.84	(1.26)
権力者の不正行為状況	5.84	(1.18)
特定者間における権利侵害状況	4.68	(1.10)

Table 5 社会的な不正感と正当世界信念との相関関係

	公共的道德規範からの逸脱状況	自己の経済的な損失状況	人権侵害状況	対人的道德規範からの逸脱状況	権力者の不正行為状況	特定者間における権利侵害状況
正当世界信念	.179 **	.102	.184 **	.167 **	.055	.028

* $p < .05$ ** $p < .01$

Table 6 社会的な不正感と規範意識と私生活主義との相関関係

	公共的道德規範からの逸脱状況	自己の経済的な損失状況	人権侵害状況	対人的道德規範からの逸脱状況	権力者の不正行為状況	特定者間における権利侵害状況
規範意識	.224 **	.116	.199 **	.154 *	.039	.021
社会的現象への無関心	-.177 **	.118	-.161 *	-.092	-.136 *	-.069
自分の感覚や実感の重視	.056	-.036	-.053	-.124	.095	-.051

* $p < .05$ ** $p < .01$

Table 7 社会的な不正感と統制感との相関関係

	公共的道德規範からの逸脱状況	自己の経済的な損失状況	人権侵害状況	対人的道德規範からの逸脱状況	権力者の不正行為状況	特定者間における権利侵害状況
統制感	.208 **	-.070	.250 **	.139 *	.089	.031

* $p < .05$ ** $p < .01$

Table 8 被害性についての平均評定値と標準偏差（平均評定値の高い順）

順位	番号	項 目	Mean	(SD)
1	50	順番待ちの列に割り込む人がいること	6.27	(1.05)
2	63	学費が高いこと	6.24	(1.22)
3	52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	6.18	(1.23)
4	51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	6.16	(1.32)
5	17	私利私欲にはしる政治家がいること	5.96	(1.42)
6	85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	5.94	(1.29)
7	72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	5.93	(1.34)
8	25	子どものしつけができない親がいること	5.90	(1.38)
9	46	借りたものを返さない人がいること	5.89	(1.20)
10	70	分かりにくい授業をしている先生がいること	5.89	(1.39)
11	16	無駄な公共事業が行われていること	5.88	(1.31)
12	57	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	5.86	(1.52)
13	58	歩きながら煙草を吸う人がいること	5.85	(1.64)
14	73	将来年金がもらえないかもしれないこと	5.85	(1.62)
15	77	税金が高いこと	5.82	(1.45)
16	38	医療ミスが起きること	5.81	(1.36)
17	79	約束を守らない人がいること	5.80	(1.18)
18	47	他人に傷つくことを言う人がいること	5.78	(1.30)
19	84	自分の責任を果たさない人がいること	5.78	(1.30)
20	61	銀行で手数料を取られること	5.68	(1.67)
21	31	乱暴な運転をする人がいること	5.66	(1.44)
22	56	電車が混んでいること	5.66	(1.56)
23	11	世界中で環境破壊が進行していること	5.65	(1.28)
24	71	交通ルールを守らない人がいること	5.65	(1.29)
25	81	常に自分が正しいと思こんでいる人がいること	5.64	(1.66)
26	29	騒音を出す人がいること	5.62	(1.59)
27	30	ゴミを道に捨てて人がいること	5.61	(1.42)
28	83	自分の考えをおしつける人がいること	5.60	(1.53)
29	19	官僚が天下りをしていること	5.51	(1.66)
30	39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	5.46	(1.45)
31	67	ペットの飼育のマナーを守らない人がいること	5.41	(1.45)
32	32	違法駐車をする人がいること	5.40	(1.53)
33	20	不当な解雇が行われていること	5.36	(1.70)
34	27	コネで就職が決まること	5.34	(1.56)
35	74	人の話を聞かない人がいること	5.33	(1.50)
36	2	人を殺す人がいること	5.32	(1.66)
37	26	学歴で就職が決まること	5.32	(1.51)
38	69	ぶつかっても謝らない人がいること	5.32	(1.53)
39	68	時間を守らない人がいること	5.30	(1.51)
40	62	図書館で大きな声で話す人がいること	5.29	(1.48)
41	65	電車内で座席に無理に座ること	5.28	(1.62)
42	5	弱い者がいじめをする人がいること	5.27	(1.51)
43	14	警察官が不祥事を起こすこと	5.27	(1.59)
44	80	嘘をつく人がいること	5.26	(1.61)
45	18	脱税をする人がいること	5.24	(1.78)
46	49	謝れば済むと思っている人がいること	5.23	(1.55)
47	78	人の悪口を言う人がいること	5.21	(1.59)
48	9	核兵器を保有している国があること	5.19	(1.66)
49	6	児童虐待があること	5.18	(1.70)
50	28	深夜に暴走族がうるさいこと	5.18	(1.94)
51	82	相手によって態度を変える人がいること	5.16	(1.83)
52	37	動物虐待があること	5.14	(1.65)
53	60	最終電車の時刻が早いこと	5.11	(1.89)
54	55	携帯電話の料金が高いこと	5.10	(1.93)
55	8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと	5.03	(1.73)
56	15	今なおいわれなき差別が存在すること	5.03	(1.62)
57	10	プライバシーを侵害した報道がなされていること	4.97	(1.70)
58	35	ところかまわず座りこむ人がいること	4.94	(1.81)
59	40	犯罪に時効があること	4.94	(1.87)
60	53	無愛想な店員がいること	4.94	(2.02)
61	7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと	4.93	(1.82)
62	13	貧富の差があること	4.93	(1.52)
63	64	電車内でヘッドホンから音が漏れること	4.89	(1.83)
64	44	犯罪被害者が救済されないこと	4.88	(1.58)
65	54	授業中に私語をする人がいること	4.86	(1.63)
66	75	銀行の利息が少なすぎる	4.84	(1.98)
67	24	違法駐車が見過ごされていること	4.83	(1.79)
68	41	障害者が暮らしにくい社会であること	4.80	(1.55)
69	4	ゴミをきちんと分別しない人がいること	4.79	(1.63)
70	3	子どもの遊び場がないこと	4.66	(1.72)
71	12	世界の中で飢餓が存在する国があること	4.61	(1.74)
72	59	挨拶をしない人がいること	4.60	(1.66)
73	36	興味本位な報道が多いこと	4.56	(1.70)
74	48	カンニングをする人がいること	4.50	(1.81)
75	33	年上の人に敬語を使わない人がいること	4.48	(1.64)
76	76	土地が高いこと	4.45	(1.98)
77	66	混雑した電車内で若い人が優先座席に座ること	4.39	(1.87)
78	1	戦争が行われていること	4.36	(1.81)
79	45	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること	4.32	(1.77)
80	43	要領のよい人ばかりが得をすること	4.30	(2.12)
81	22	海外に膨大な資金援助が行われていること	4.28	(1.80)
82	42	出席だけをとって帰る学生がいること	3.89	(2.08)
83	23	原子力発電所が特定の地域に集中していること	3.81	(1.59)
84	21	沖縄に基地が集中していること	3.67	(1.82)
85	34	電車内で化粧をする人がいること	3.57	(1.96)

Table 9 関与性についての平均評定値と標準偏差 (平均評定値の高い順)

順位	番号	項目	Mean	(SD)
1	54	授業中に私語をする人がいること	6.60	(0.90)
2	56	電車が混んでいること	6.44	(1.22)
3	42	出席だけをとりて帰る学生がいること	6.41	(1.14)
4	58	歩きながら煙草を吸う人がいること	6.40	(1.07)
5	63	学費が高いこと	6.34	(1.27)
6	34	電車内で化粧をする人がいること	6.16	(1.16)
7	33	年上の人に敬語を使わない人がいること	6.15	(1.24)
8	64	電車内でヘッドホンから音が漏れること	6.15	(1.15)
9	70	分かりにくい授業をしている先生がいること	6.15	(1.16)
10	51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	6.06	(1.37)
11	35	ところかまわず座りこむ人がいること	6.05	(1.31)
12	32	違法駐車をする人がいること	6.01	(1.31)
13	43	要領のよい人ばかりが得をすること	6.00	(1.43)
14	30	ゴミを道に捨てる人がいること	5.97	(1.41)
15	61	銀行で手数料を取られること	5.97	(1.70)
16	72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	5.95	(1.42)
17	57	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	5.91	(1.35)
18	71	交通ルールを守らない人がいること	5.91	(1.28)
19	66	混雑した電車内で若い人が優先座席に座ること	5.89	(1.46)
20	82	相手によって態度を変える人がいること	5.89	(1.43)
21	50	順番待ちの列に割り込む人がいること	5.88	(1.43)
22	47	他人に傷つくことを言う人がいること	5.87	(1.45)
23	74	人の話を聞かない人がいること	5.86	(1.39)
24	65	電車内で座席に無理に座ること	5.85	(1.52)
25	68	時間を守らない人がいること	5.84	(1.40)
26	25	子どものしつけができない親がいること	5.83	(1.68)
27	78	人の悪口を言う人がいること	5.83	(1.42)
28	46	借りたものを返さない人がいること	5.81	(1.58)
29	80	嘘をつく人がいること	5.81	(1.44)
30	52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	5.79	(1.49)
31	31	乱暴な運転をする人がいること	5.76	(1.65)
32	79	約束を守らない人がいること	5.74	(1.51)
33	53	無愛想な店員がいること	5.67	(1.66)
34	81	常に自分が正しいと思こんでいる人がいること	5.63	(1.72)
35	59	挨拶をしない人がいること	5.61	(1.41)
36	83	自分の考えをおしつける人がいること	5.56	(1.68)
37	77	税金が高いこと	5.55	(1.81)
38	84	自分の責任を果たさない人がいること	5.53	(1.68)
39	55	携帯電話の料金が高いこと	5.49	(1.76)
40	29	騒音を出す人がいること	5.48	(1.84)
41	49	謝れば済むと思っている人がいること	5.48	(1.63)
42	69	ぶつかっても謝らない人がいること	5.47	(1.57)
43	24	違法駐車が見逃がされていること	5.40	(1.74)
44	85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	5.40	(1.70)
45	26	学歴で就職が決まること	5.38	(1.71)
46	48	カンニングをする人がいること	5.32	(1.82)
47	27	コネで就職が決まること	5.29	(1.82)
48	73	将来年金がもらえないかもしれないこと	5.28	(1.88)
49	60	最終電車の時刻が早いこと	5.26	(2.03)
50	45	本屋で盗んだ本を元に戻さない人がいること	5.22	(1.81)
51	11	世界中で環境破壊が進行していること	5.18	(1.91)
52	16	無駄な公共事業が行われていること	5.16	(1.93)
53	4	ゴミをきちんと分別しない人がいること	5.13	(1.76)
54	28	深夜に暴走族がうるさいこと	5.11	(2.10)
55	75	銀行の利息が少なすぎる	5.06	(2.03)
56	67	ペットの飼育のマナーを守らない人がいること	5.03	(1.56)
57	36	興味本位な報道が多いこと	4.94	(1.68)
58	62	図書館で大きな声で話す人がいること	4.93	(1.79)
59	5	弱い者いじめをする人がいること	4.72	(1.94)
60	41	障害者が暮らしにくい社会であること	4.65	(1.82)
61	13	貧富の差があること	4.60	(2.02)
62	17	私利私欲にはしる政治家がいること	4.39	(1.96)
63	14	警察官が不祥事を起こすこと	4.30	(2.02)
64	39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	4.20	(1.79)
65	10	プライバシーを侵害した報道がなされていること	4.18	(1.91)
66	3	子どもの遊び場がないこと	4.17	(2.11)
67	15	今なおいじめなき差別が存在すること	4.17	(2.02)
68	20	不当な解雇が行われていること	4.13	(1.88)
69	44	犯罪被害者が救済されないこと	4.05	(1.79)
70	76	土地が高いこと	4.05	(2.23)
71	2	人を殺す人がいること	3.99	(2.15)
72	9	核兵器を保有している国があること	3.90	(2.07)
73	38	医療ミスが起きること	3.83	(1.82)
74	18	脱税をする人がいること	3.80	(1.99)
75	37	動物虐待があること	3.69	(1.70)
76	6	児童虐待があること	3.62	(2.11)
77	8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと	3.59	(1.87)
78	40	犯罪に時効があること	3.50	(1.84)
79	12	世界の中で飢饉が存在する国があること	3.49	(1.98)
80	19	官僚が天下りをしていること	3.48	(1.93)
81	7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと	3.23	(1.83)
82	22	海外に膨大な資金援助が行われていること	3.22	(1.81)
83	23	原子力発電所が特定の地域に集中していること	2.99	(1.74)
84	1	戦争が行われていること	2.83	(1.87)
85	21	沖縄に基地が集中していること	2.60	(1.57)

Table 10 原因特定性についての平均評定値と標準偏差（平均評定値の高い順）

順位	番号	項目	Mean	(SD)
1	11	世界中で環境破壊が進行していること	5.82	(1.46)
2	12	世界の中で飢饉が存在する国があること	5.45	(1.49)
3	13	貧富の差があること	5.39	(1.61)
4	17	私利私欲にはしる政治家がいること	5.23	(1.82)
5	1	戦争が行われていること	5.22	(1.51)
6	18	脱税をする人がいること	5.21	(1.80)
7	4	ゴミをきちんと分別しない人がいること	5.19	(1.50)
8	56	電車が混んでいること	5.14	(1.73)
9	42	出席だけをとって帰る学生がいること	5.06	(1.74)
10	3	子どもの遊び場所がないこと	5.05	(1.71)
11	19	官僚が天下りをしていること	5.04	(1.80)
12	5	弱い者いじめをする人がいること	4.96	(1.49)
13	32	違法駐車をする人がいること	4.91	(1.62)
14	43	要領のよい人ばかりが得をする	4.89	(1.73)
15	16	無駄な公共事業が行われていること	4.88	(1.90)
16	73	将来年金がもらえないかもしれないこと	4.85	(2.02)
17	82	相手によって態度を変える人がいること	4.84	(1.92)
18	26	学歴で就職が決まること	4.77	(1.68)
19	22	海外に膨大な資金援助が行われていること	4.74	(1.73)
20	25	子どものしつけができない親がいること	4.74	(1.73)
21	30	ゴミを道に捨てる人がいること	4.73	(1.77)
22	41	障害者が暮らしにくい社会であること	4.73	(1.53)
23	6	児童虐待があること	4.72	(1.71)
24	48	カンニングをする人がいること	4.72	(1.77)
25	64	電車内でヘッドホンから音が漏れること	4.70	(1.63)
26	9	核兵器を保有している国があること	4.67	(1.90)
27	21	沖縄に基地が集中していること	4.64	(1.84)
28	66	混雑した電車内で若い人が優先席に座ること	4.64	(1.91)
29	54	授業中に私語をする人がいること	4.63	(1.61)
30	33	年上の人に敬語を使わない人がいること	4.57	(1.77)
31	38	医療ミスが起きること	4.57	(1.74)
32	55	携帯電話の料金が高いこと	4.56	(1.80)
33	20	不当な解雇が行われていること	4.54	(1.77)
34	34	電車内で化粧をする人がいること	4.54	(1.80)
35	2	人を殺す人がいること	4.48	(1.79)
36	76	土地が高いこと	4.48	(1.86)
37	83	自分の考えをおしつける人がいること	4.48	(1.88)
38	10	プライバシーを侵害した報道がなされていること	4.45	(1.66)
39	23	原子力発電所が特定の地域に集中していること	4.43	(1.71)
40	51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	4.40	(2.10)
41	72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	4.40	(2.09)
42	31	乱暴な運転をする人がいること	4.39	(1.67)
43	77	税金が高いこと	4.39	(1.95)
44	78	人の悪口を言う人がいること	4.39	(1.81)
45	85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	4.39	(1.98)
46	27	コネで就職が決まること	4.38	(1.84)
47	39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	4.38	(1.81)
48	65	電車内で座席に無理に座ること	4.38	(1.69)
49	47	他人に傷つくことを言う人がいること	4.36	(1.81)
50	80	嘘をつく人がいること	4.35	(1.82)
51	36	興味本位な報道が多いこと	4.34	(1.68)
52	15	今なおいわれなき差別が存在すること	4.33	(1.87)
53	71	交通ルールを守らない人がいること	4.33	(1.80)
54	75	銀行の利息が少なすぎる	4.33	(1.88)
55	49	謝れば済むと思っている人がいること	4.32	(1.88)
56	14	警察官が不祥事を起こすこと	4.31	(1.88)
57	44	犯罪被害者が救済されないこと	4.31	(1.92)
58	50	順番待ちの列に割り込む人がいること	4.31	(2.06)
59	58	歩きながら煙草を吸う人がいること	4.31	(2.09)
60	28	深夜に暴走族がうるさいこと	4.28	(1.71)
61	35	ところかまわず座りこむ人がいること	4.28	(1.87)
62	45	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること	4.28	(1.74)
63	53	無愛想な店員がいること	4.24	(1.84)
64	74	人の話を聞かない人がいること	4.24	(1.76)
65	84	自分の責任を果たさない人がいること	4.24	(1.91)
66	57	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	4.23	(1.83)
67	46	借りたものを返さない人がいること	4.21	(1.84)
68	60	最終電車の時刻が早いこと	4.20	(1.85)
69	37	動物虐待があること	4.19	(1.61)
70	8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと	4.18	(1.92)
71	29	騒音を出す人がいること	4.16	(1.69)
72	52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	4.16	(1.92)
73	61	銀行で手数料を取られること	4.16	(2.17)
74	24	違法駐車が見逃されていること	4.15	(1.69)
75	79	約束を守らない人がいること	4.14	(1.79)
76	67	ベットの側の方のマナーを守らない人がいること	4.12	(1.91)
77	81	常に自分が正しいと思いついでいる人がいること	4.12	(1.99)
78	68	時間を守らない人がいること	4.06	(1.78)
79	69	ぶつかっても謝らない人がいること	4.05	(1.67)
80	7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと	4.03	(2.02)
81	63	学費が高いこと	3.98	(1.96)
82	70	分かりにくい授業をしている先生がいること	3.95	(2.10)
83	59	挨拶をしない人がいること	3.90	(1.86)
84	62	図書館で大きな声で話す人がいること	3.79	(1.75)
85	40	犯罪に時効があること	3.63	(1.91)

Table 11 対処性についての平均評定値と標準偏差 (平均評定値の高い順)

順位	番号	項目	Mean	(SD)
1	3	子どもの遊び場がないこと	5.41	(1.39)
2	4	ゴミをきちんと分別しない人がいること	5.12	(1.59)
3	8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと	5.12	(1.76)
4	41	障害者が暮らしにくい社会であること	5.01	(1.76)
5	16	無駄な公共事業が行われていること	4.82	(1.80)
6	44	犯罪被害者が救済されないこと	4.74	(1.58)
7	64	電車内でヘッドホンから音が漏れること	4.72	(1.94)
8	55	携帯電話の料金が高いこと	4.71	(1.73)
9	11	世界中で環境破壊が進行していること	4.65	(1.99)
10	24	違法駐車が見逃されていること	4.65	(1.78)
11	10	プライバシーを侵害した報道がなされていること	4.64	(1.75)
12	7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと	4.62	(1.78)
13	33	年上の人に敬語を使わない人がいること	4.56	(1.82)
14	62	図書館で大きな声で話す人がいること	4.56	(1.84)
15	20	不当な解雇が行われていること	4.48	(1.78)
16	6	児童虐待があること	4.46	(1.66)
17	14	警察官が不祥事を起こすこと	4.44	(1.85)
18	51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	4.43	(1.96)
19	40	犯罪に時効があること	4.40	(1.98)
20	66	混雑した電車内で若い人が優先座席に座ること	4.37	(1.91)
21	12	世界の中で軌跡が存在する国があること	4.35	(1.90)
22	22	海外に膨大な資金援助が行われていること	4.30	(1.67)
23	30	ゴミを道に捨てる人がいること	4.29	(2.04)
24	19	官僚が天下りをしていること	4.27	(1.98)
25	45	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること	4.27	(1.66)
26	52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	4.27	(1.84)
27	53	無愛想な店員がいること	4.24	(2.06)
28	67	ペットの飼育のマナーを守らない人がいること	4.24	(1.60)
29	37	動物虐待があること	4.23	(1.64)
30	42	出席だけをとって帰る学生がいること	4.23	(2.10)
31	32	違法駐車をする人がいること	4.20	(1.73)
32	36	興味本位な報道が多いこと	4.14	(1.71)
33	63	学費が高いこと	4.14	(1.90)
34	1	戦争が行われていること	4.13	(2.07)
35	34	電車内で化粧をする人がいること	4.13	(1.73)
36	38	医療ミスが起きること	4.13	(1.86)
37	5	弱い者いじめをする人がいること	4.12	(1.76)
38	35	ところかまわず座りこむ人がいること	4.12	(1.82)
39	25	子どものしつけができない親がいること	4.11	(1.74)
40	59	挨拶をしない人がいること	4.10	(1.93)
41	15	今なおいじめなき差別が存在すること	4.07	(1.83)
42	29	騒音を出す人がいること	4.07	(1.69)
43	60	最終電車の時刻が早いこと	4.07	(2.03)
44	18	脱税をする人がいること	4.06	(1.89)
45	46	借りたものを返さない人がいること	4.06	(1.79)
46	54	授業中に私語をする人がいること	4.03	(2.02)
47	17	私利私欲にはしる政治家がいること	4.02	(2.04)
48	48	カンニングをする人がいること	4.01	(1.66)
49	57	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	4.01	(1.73)
50	72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	4.01	(1.90)
51	26	学歴で就職が決まること	4.00	(1.88)
52	65	電車内で座席に無理に座ること	4.00	(1.89)
53	58	歩きながら煙草を吸う人がいること	3.99	(1.92)
54	61	銀行で手数料を取られること	3.97	(1.89)
55	68	時間を守らない人がいること	3.97	(1.79)
56	21	沖縄に基地が集中していること	3.94	(1.67)
57	73	将来年金がもらえないかもしれないこと	3.93	(1.90)
58	50	順番待ちの列に割り込む人がいること	3.90	(1.90)
59	28	深夜に暴走族がうるさいこと	3.89	(1.74)
60	27	コネで就職が決まること	3.88	(1.88)
61	9	核兵器を保有している国があること	3.83	(2.06)
62	71	交通ルールを守らない人がいること	3.82	(1.81)
63	39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	3.80	(1.84)
64	75	銀行の利息が少なすぎること	3.79	(1.75)
65	31	乱暴な運転をする人がいること	3.76	(1.68)
66	69	ぶつかっても謝らない人がいること	3.73	(1.74)
67	74	人の話を聞かない人がいること	3.68	(1.71)
68	76	土地が高いこと	3.66	(1.71)
69	2	人を殺す人がいること	3.64	(1.93)
70	49	謝れば済むと思っている人がいること	3.63	(1.69)
71	23	原子力発電所が特定の地域に集中していること	3.61	(1.58)
72	47	他人に傷つくことを言う人がいること	3.56	(1.72)
73	43	要領のよい人ばかりが得をすること	3.55	(1.86)
74	77	税金が高いこと	3.53	(1.95)
75	13	貧富の差があること	3.43	(1.90)
76	70	分りにくい授業をしている先生がいること	3.38	(1.95)
77	78	人の悪口を言う人がいること	3.26	(1.80)
78	79	約束を守らない人がいること	3.26	(1.77)
79	84	自分の責任を果たさない人がいること	3.17	(1.84)
80	83	自分の考えをおしつける人がいること	3.10	(1.72)
81	56	電車が混んでいること	3.02	(1.80)
82	80	嘘をつく人がいること	3.00	(1.74)
83	85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	2.94	(1.76)
84	81	常に自分が正しいと思こんでいる人がいること	2.86	(1.61)
85	82	相手によって態度を変える人がいること	2.81	(1.57)

Table 12 被害性, 関与性, 原因特定性, 対処性の平均評定値と標準偏差

番号	項目	被害性		関与性		原因特定性		対処性	
		Mean	(SD)	Mean	(SD)	Mean	(SD)	Mean	(SD)
1	戦争が行われていること	4.36	(1.81)	2.63	(1.87)	5.22	(1.51)	4.13	(2.07)
2	人を殺す人がいること	5.32	(1.66)	3.99	(2.15)	4.48	(1.79)	3.64	(1.93)
3	子どもの遊び場がないこと	4.66	(1.72)	4.17	(2.11)	5.05	(1.71)	5.41	(1.39)
4	ゴミをきちんと分別しない人がいること	4.79	(1.63)	5.13	(1.76)	5.19	(1.50)	5.12	(1.59)
5	弱い者いじめをする人がいること	5.27	(1.51)	4.72	(1.94)	4.96	(1.49)	4.12	(1.76)
6	児童虐待があること	5.18	(1.70)	3.62	(2.11)	4.72	(1.71)	4.46	(1.66)
7	殺人を犯しても死刑にならない場合が多いこと	4.93	(1.82)	3.23	(1.83)	4.03	(2.02)	4.62	(1.78)
8	未成年者の犯罪に対する量刑が軽いこと	5.03	(1.73)	3.59	(1.87)	4.18	(1.92)	5.12	(1.76)
9	核兵器を保有している国があること	5.19	(1.66)	3.90	(2.07)	4.67	(1.90)	3.83	(2.06)
10	プライバシーを侵害した報道がなされていること	4.97	(1.70)	4.18	(1.91)	4.45	(1.66)	4.64	(1.75)
11	世界中で環境破壊が進行していること	5.65	(1.28)	5.18	(1.91)	5.62	(1.46)	4.65	(1.99)
12	世界の中で飢餓が存在する国があること	4.61	(1.74)	3.49	(1.98)	5.45	(1.49)	4.35	(1.90)
13	貧富の差があること	4.93	(1.52)	4.60	(2.02)	5.39	(1.61)	3.43	(1.90)
14	警察官が不祥事を起こすこと	5.27	(1.59)	4.30	(2.02)	4.31	(1.88)	4.44	(1.85)
15	今なおいじめ差別が存在すること	5.03	(1.62)	4.17	(2.02)	4.33	(1.87)	4.07	(1.83)
16	無駄な公共事業が行われていること	5.88	(1.31)	5.16	(1.93)	4.88	(1.90)	4.82	(1.80)
17	私利私欲にはしる政治家がいること	5.96	(1.42)	4.39	(1.96)	5.23	(1.82)	4.02	(2.04)
18	脱税をする人がいること	5.24	(1.78)	3.80	(1.99)	5.21	(1.80)	4.06	(1.89)
19	官僚が天下りをしていること	5.51	(1.66)	3.48	(1.93)	5.04	(1.80)	4.27	(1.98)
20	不当な解雇が行われていること	5.36	(1.70)	4.13	(1.88)	4.54	(1.77)	4.48	(1.78)
21	沖縄に基地が集中していること	3.67	(1.82)	2.60	(1.57)	4.64	(1.84)	3.94	(1.67)
22	海外に膨大な資金援助が行われていること	4.28	(1.80)	3.22	(1.81)	4.74	(1.73)	4.30	(1.67)
23	原子力発電所が特定の地域に集中していること	3.81	(1.59)	2.99	(1.74)	4.43	(1.71)	3.61	(1.58)
24	違法駐車が目立つこと	4.83	(1.79)	5.40	(1.74)	4.15	(1.69)	4.65	(1.78)
25	子どものしつけができない親がいること	5.90	(1.38)	5.83	(1.68)	4.74	(1.73)	4.11	(1.74)
26	学歴で就職が決まること	5.32	(1.51)	5.38	(1.71)	4.77	(1.68)	4.00	(1.88)
27	コネで就職が決まること	5.34	(1.56)	5.29	(1.82)	4.38	(1.84)	3.88	(1.88)
28	深夜に暴走族がうるさいこと	5.18	(1.94)	5.41	(2.10)	4.28	(1.71)	3.89	(1.74)
29	騒音を出す人がいること	5.62	(1.59)	5.48	(1.84)	4.16	(1.69)	4.07	(1.69)
30	ゴミを道に捨てる人がいること	5.61	(1.42)	5.97	(1.41)	4.73	(1.77)	4.29	(2.04)
31	乱暴な運転をする人がいること	5.66	(1.44)	5.76	(1.65)	4.39	(1.67)	3.76	(1.68)
32	違法駐車をする人がいること	5.40	(1.53)	6.01	(1.31)	4.91	(1.62)	4.20	(1.73)
33	年上の人に敬語を使わない人がいること	4.48	(1.64)	6.15	(1.24)	4.57	(1.77)	4.56	(1.82)
34	電車で化粧をする人がいること	3.57	(1.96)	6.16	(1.16)	4.54	(1.80)	4.13	(1.73)
35	ところかまわず座りこむ人がいること	4.94	(1.81)	6.05	(1.31)	4.28	(1.87)	4.12	(1.82)
36	興味本位な報道が多いこと	4.56	(1.70)	4.94	(1.68)	4.34	(1.68)	4.14	(1.71)
37	動物虐待があること	5.14	(1.65)	3.69	(1.70)	4.19	(1.61)	4.23	(1.64)
38	医療ミスが起きること	5.81	(1.36)	3.83	(1.82)	4.57	(1.74)	4.13	(1.86)
39	未成年者が凶悪犯罪を起こすこと	5.46	(1.45)	4.20	(1.79)	4.38	(1.81)	3.80	(1.84)
40	犯罪に時効があること	4.94	(1.87)	3.50	(1.84)	3.63	(1.91)	4.40	(1.98)
41	障害者が暮らしにくい社会であること	4.80	(1.55)	4.65	(1.82)	4.73	(1.53)	5.01	(1.76)
42	出席だけをとり帰る学生がいること	3.89	(2.08)	6.41	(1.14)	5.06	(1.74)	4.23	(2.10)
43	要領のよい人が少ないこと	4.30	(2.12)	6.00	(1.43)	4.89	(1.73)	3.55	(1.86)
44	犯罪被害者が救済されないこと	4.88	(1.58)	4.05	(1.79)	4.31	(1.92)	4.74	(1.58)
45	本屋で読んだ本を元に戻さない人がいること	4.32	(1.77)	5.22	(1.81)	4.28	(1.74)	4.27	(1.66)
46	借りたものを返さない人がいること	5.89	(1.20)	5.81	(1.58)	4.21	(1.84)	4.06	(1.79)
47	他人に傷つくことを言う人がいること	5.78	(1.30)	5.87	(1.45)	4.36	(1.81)	3.56	(1.72)
48	カンニングをする人がいること	4.50	(1.81)	5.32	(1.82)	4.72	(1.77)	4.01	(1.66)
49	謝れば済むと思っている人がいること	5.23	(1.55)	5.48	(1.63)	4.32	(1.88)	3.63	(1.69)
50	順番待ちの列に割り込む人がいること	6.27	(1.05)	5.88	(1.43)	4.31	(2.06)	3.90	(1.90)
51	喫煙が禁止されている場所で煙草を吸う人がいること	6.16	(1.32)	6.06	(1.37)	4.40	(2.10)	4.43	(1.96)
52	混雑した車内で座席に荷物を置いたままの人がいること	6.18	(1.23)	5.79	(1.49)	4.16	(1.92)	4.27	(1.84)
53	無愛想な店員がいること	4.94	(2.02)	5.67	(1.66)	4.24	(1.84)	4.24	(2.06)
54	授業中に私語をする人がいること	4.86	(1.63)	6.00	(0.90)	4.63	(1.61)	4.03	(2.02)
55	携帯電話の料金が高いこと	5.10	(1.93)	5.49	(1.76)	4.56	(1.80)	4.71	(1.73)
56	電車が混んでいること	5.66	(1.56)	6.44	(1.22)	5.14	(1.73)	3.02	(1.80)
57	電車内で携帯電話で大声で話す人がいること	5.86	(1.52)	5.91	(1.35)	4.23	(1.83)	4.01	(1.73)
58	歩きながら煙草を吸う人がいること	5.85	(1.64)	6.40	(1.07)	4.31	(2.09)	3.99	(1.92)
59	挨拶をしない人がいること	4.60	(1.66)	5.61	(1.41)	3.90	(1.86)	4.10	(1.93)
60	最終電車の時刻が早いこと	5.11	(1.89)	5.26	(2.03)	4.20	(1.85)	4.07	(2.03)
61	銀行で手数料を取られること	5.68	(1.67)	5.97	(1.70)	4.16	(2.17)	3.97	(1.89)
62	図書館で大きな声で話す人がいること	5.29	(1.48)	4.93	(1.79)	3.79	(1.75)	4.56	(1.84)
63	学費が高いこと	6.24	(1.22)	6.34	(1.27)	3.98	(1.96)	4.14	(1.90)
64	電車内でヘッドホンから音が漏れること	4.89	(1.83)	6.15	(1.15)	4.70	(1.63)	4.72	(1.94)
65	電車内で座席に無理に座ること	5.28	(1.62)	5.85	(1.52)	4.38	(1.69)	4.00	(1.89)
66	混雑した電車内で若い人が優先座席に座ること	4.39	(1.87)	5.89	(1.46)	4.64	(1.91)	4.37	(1.91)
67	ベットの側の方のマナーを守らない人がいること	5.41	(1.45)	5.03	(1.56)	4.12	(1.91)	4.24	(1.60)
68	時間を守らない人がいること	5.30	(1.51)	5.84	(1.40)	4.06	(1.78)	3.97	(1.79)
69	ぶつかっても謝らない人がいること	5.32	(1.53)	5.47	(1.57)	4.05	(1.67)	3.73	(1.74)
70	分かりにくい授業をしている先生がいること	5.89	(1.39)	6.15	(1.16)	3.95	(2.10)	3.38	(1.95)
71	交通ルールを守らない人がいること	5.65	(1.29)	5.91	(1.28)	4.33	(1.80)	3.82	(1.81)
72	電車で降りる人よりも先に乗る人がいること	5.93	(1.34)	5.95	(1.42)	4.40	(2.09)	4.01	(1.90)
73	将来年金がもらえないかもしれないこと	5.85	(1.62)	5.28	(1.88)	4.85	(2.02)	3.93	(1.90)
74	人の話を聞かない人がいること	5.33	(1.50)	5.86	(1.39)	4.24	(1.76)	3.68	(1.71)
75	銀行の利息が少なすぎる	4.84	(1.98)	5.06	(2.03)	4.33	(1.88)	3.79	(1.75)
76	土地が高いこと	4.45	(1.98)	4.05	(2.23)	4.48	(1.86)	3.66	(1.71)
77	税金が高いこと	5.82	(1.45)	5.55	(1.81)	4.39	(1.95)	3.53	(1.95)
78	人の悪口を言う人がいること	5.21	(1.59)	5.83	(1.42)	4.39	(1.81)	3.26	(1.80)
79	約束を守らない人がいること	5.80	(1.18)	5.74	(1.51)	4.14	(1.79)	3.26	(1.77)
80	嘘をつく人がいること	5.26	(1.61)	5.81	(1.44)	4.35	(1.82)	3.00	(1.74)
81	常に自分が正しいと思こんでいる人がいること	5.64	(1.66)	5.63	(1.72)	4.12	(1.99)	2.86	(1.61)
82	相手によって態度を変える人がいること	5.16	(1.83)	5.89	(1.43)	4.84	(1.92)	2.81	(1.57)
83	自分の考えをおしつける人がいること	5.60	(1.53)	5.56	(1.68)	4.48	(1.88)	3.10	(1.72)
84	自分の責任を棄たさない人がいること	5.78	(1.30)	5.53	(1.68)	4.24	(1.91)	3.17	(1.84)
85	自分の責任を他者に転嫁する人がいること	5.94	(1.29)	5.40	(1.70)	4.39	(1.98)	2.94	(1.76)

Table 13 社会的公正感と被害性, 関与性, 原因特定性, 対処性との相関関係

	被害性	関与性	原因特定性	対処性
社会的公正感	.543 **	-.317 **	-.020	.250 *

* $p < .05$ ** $p < .01$

【付記】本研究の一部は平成16年度関西大学研修員研修費の助成を受けた。

引用文献

- Adams, J. S. 1965 Inequity in social exchange. In L. Berkowitz (Ed.), *Advances in experimental social psychology*, Vol. 2. New York, NY: Academic Press. Pp. 267-297.
- Homans, G. C. 1961 *Social behavior: Its elementary forms*. New York: Harcourt Brace & World (橋本茂訳 1978 社会行動 —その基本形態— 誠信書房).
- 今野裕之・堀洋道 1998 正当世界信念が社会状況の不正判断に及ぼす影響について 筑波大学心理学研究, 20, Pp. 157-162.
- 鎌原雅彦・樋口一唇・清水直治 1982 Locus of Control 尺度の作成と, 信頼性, 妥当性の検討 教育心理学研究, 30, Pp. 302-307.
- 久世敏雄・和田実・鄭曉斉・浅野敬子・後藤宗理・二宮克美・宮沢秀次・宗方比佐子・内山伊知郎・平石賢二・大野久 1988 現代青年の規範意識と私生活主義について 名古屋大学 教育学部紀要—教育心理学科—, 35, Pp. 21-28.
- Lazarus, R. S., & Folkman, S. 1984 *Stress, appraisal and coping*. Springer.
- Leventhal, G. S. 1980 What should be done with equity theory? New approaches to the study of fairness in social relationships. In K.J. Gergen, M.S. Greenberg, & H. Willis (Eds.), *Social exchange: Advances in theory and research*. New York, NY: Wiley. Pp. 27-55.
- Rotter, J. B. 1966 Generalized expectancies for internal versus external control of reinforcement. *Psychological Monograph*, 80, Pp. 1-28.
- Rubin, Z., & Peplau, A. 1975 Who believes in a just world? *Journal of Social Issues*, 31, Pp. 65-89.
- 田中堅一郎(編) 1998 社会的公正の心理学 —心理学の視点からみた「フェア」と「アンフェア」— ナカニシヤ出版.
- Thibaut, J., & Walker, L. 1975 *Procedural justice: A psychological analysis*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Trope, Y. 1986 Identification and inferential processes in dispositional attribution. *Psychological Review*, 93, Pp. 239-257.
- Tyler, T. R., Boeckmann, R. J., Smith, H. J., & Hou, Y. J. 1997 *Social justice in a Diverse Society*. Westview Press. (大淵憲一・菅原郁夫監訳 2000 多元社会における正義と公正 プレーン出版).
- 山口貴之・森上幸夫・西迫成一郎・桑原尚史 2003 社会的公正さの判断基準の分析 —社会的公正判断過程に関する研究(1)— 関西大学総合情報学部紀要「情報研究」, 19, Pp 83-96.
- Weiner, B. 1985 "Spontaneous" causal thinking. *Psychological Bulletin*, 97, Pp. 74-84.
- Weiner, B. 1986 *An attributional theory of motivation and emotion*. New York: Springer-Verlag.
- Wong, P. T. P., & Weiner, B. 1981 When people ask "why" questions and the heuristics of attributional search. *Journal of Personality and Social Psychology*, 40, Pp. 650-663.